

安全でおいしい水をつくる 先進の浄水プラントなど視察

委員8名は浄水課長・水道配水課長とともに、10月8日から10日まで、東京都・岐阜県御嵩町・京都府宇治市を視察し、浄水場や都市計画事業などを調査しました。

都の一日の給水量は700万m³で、学校のプール1万5,000杯分に当たり、12の浄水場が毎日フル稼働しています。



金町浄水場での行政視察

◆葛飾区金町浄水場◆ 大正15年から稼働し、これまで7回の拡張改良工事が行われ、250万人の都民に1日150万m³を給水するため、2万6,000m³の広大な敷地に施設が並びます。平成4年からは、オゾンと生物活性炭による処理設備も導入し、総処理能力の1/3に当たる52万m³を高度浄水処理しています。

また、平成12年からは、震災対策や環境対策とコスト縮減を目的とした、常用発電施設が稼働しています。全国初のPFIモデル事業で整備したコージェネレーションシステムで、発電の熱を排水処理に有効利用しています。

※高度浄水処理＝通常処理できないカビ臭・トリハロメタン・カルキ臭などの原因物質を、除去・軽減する処理方法。

※Private Finance Initiative＝公共部門の社会資本を、運営分野に民間事業者の資金や経営ノウハウを導入して、効率的に整備する手法。

御嵩町

企業訪問で、最新浄水技術のひとつを視察しました。

◆セラミック膜浄水システム◆ セラミック膜部

品は、耐熱・耐食・耐溶剤性に優れ、破損が極めて少なく不純物が出ないとのこと。また、ごみを洗浄で除去できるため、他の材質よりも長い期間使用できると考えられています。

このため、水質の安全確保とともに、大幅なコストダウンや省スペース化が可能との説明でした。

宇治市

10円硬貨でおなじみの平等院や宇治茶で有名な、人口19万人の宇治市は、源氏物語のまちづくりを進めています。

◆都市再生整備計画◆ 交通渋滞緩和や歩道確保・バリアフリー化を目的に、都市計画マスタープランに基づき、平成19年から24年までの予定で、まちづくり交付金を活用して実施しています。

事業は、市の南の玄関口である近鉄大久保駅とJR新田駅を中心とした駅前再開発で、市民によるワークショップを中心に進められています。また、南に隣接する京都市のベクトタウンとしての性格もあり、一部で京都市との合同事業も展開しています。

なお、鉄道をまたぐ自由通路に伴う駅舎の改修では、市も相当の事業費を負担しているとのことでした。



宇治市での行政視察

大崎市

平成18年3月に6町が合併し、人口10万人弱の市となりました。現在、合併特例により、議員数は56名です。

◆議会中継システム◆ 本会議の生中継と議員名での検索ができる録画を配信しており、200件の同時接続が可能で、年間維持費は300万円です。アクセス件数は年々減少しているものの、公立病院建設場所の審議では2日間1万7,000件ものアクセスがあり、施策などでの市民の関心度を測ることができるとのことでした。

◆議会広報体制◆ いずれの市議会でも、広報を所管する組織を特別委員会に位置づけていますが、性格としてそぐわないとの判断から、常任委員会あるいは恒常的に議会活動を行う組織への移行を考えているようでした。

横手市ではこの9月定例会で規則を改正し、これまでの議会だよりを編集する任意の委員会から、広報全般にわたり議会活動を行う公的な組織に位置づけられました。

また、会議録の公開や議会中継は導入を進めています。議会記録検索システムについては広報手段としては有効なものの、導入にあたっては費用対効果が課題と感じてまいりました。